

バイブルスタディ Pastor JD Farag

2018. 10. 28

ピリピ人への手紙 1:12-19 「神の方法が理解できない時は？」

使徒パウロが聖霊によってピリピの教会に書いています。12 節から。

12 さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。

13 私がキリストのゆえに投獄されていることが、親衛隊の全員と、ほかのすべての人たちに明らかになり、

14 兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことで、主にあつて確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆にみことばを語るようになりました。

15 人々の中には、ねたみや争いからキリストを宣べ伝える者もありますが、善意からする者もあります。

16 ある人たちは、私が福音を弁証するために立てられていることを知り、愛をもってキリストを伝えています

17 ほかの人たちは党派心からキリストを宣べ伝えており、純粋な動機からではありません。

鎖につながれている私をさらに苦しめるつもりなのです。

18 しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。そうです。これからも喜ぶでしょう。

19 というのは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の支えによって、私が切に期待し望んでいるとおりに、このことが結局は私の救いになることを知っているからです。

“知っている”の言葉について後で話しますが、パウロは「私は願っている」とか「祈っている」とか「思っている」ではなく、「私は知っている」と言いました。「知っている。」

祈りましょう。

愛する天のお父様、今朝、あなたの御言葉の中で与えられているこの箇所を感謝します。

使徒パウロを感謝します。

聖霊様が彼に靈感を授け、この手紙を書かせて下さったので、ほぼ 2000 年後、私たちはあなたの民としてあなたの教会に集い、これらの御言葉によって励まされ祝福されています。

主よ、それゆえに私たちはここにいます。

ですから、私たちに触れて働きかけ、私たちの人生に語って下さい。

イエスの御名によって。アーメン。

今日は、“人生に於いて神の方法が全く理解できない時”ということについて話したいと思います。

人生の全てが神の御心と善とに矛盾する時。

確かにピリピ教会に関することですが、感謝なことに、使徒パウロが御霊によって御言葉の中から教えています。彼は聖書の中で、「人生で困難な状況に置かれた時、特にそれが全く理解できない時、神の目的は一体何なのか。」ということを語りました。

今日の学びに入るのに、この背景を知る必要があると思います。

ピリピ教会にこの手紙を書いた時、“パウロは困難な状況にいた”というのは、余りにも控えめな表現でしょう。

ピリピ書のようなものになると、時々見過ごしてしまいがちですが、パウロは投獄されていたのだという事を頭に入れておく必要があります。

投獄されていただけでなく、文字通り、毎日昼夜を問わず、ローマの番兵によって鎖でつながれていました。

ローマの番兵たちは 4~6 時間毎に交代していたと言われていて、あまり生々しい表現はしたくないのですが、この事をちょっと考えてみて下さい。

トイレを使わなければならない時、ローマの番兵たちがすぐそこにいるわけですよ。想像してみてください。

それに、当時の牢獄は現代の刑務所とは全く異なります。

体育館や娯楽室、卓球台にビリヤード台、テーブルサッカーもありません。

パウロはローマの番兵に鎖につながれて、この手紙を書いたのです。

ピリピのクリスチャンたちにとって、パウロが再び投獄され、今なお投獄され続けていることは、全く理解できなかったでしょう。

なぜなら、彼らは、パウロとシラスが自分たちと共にいた時、神がこの二人を奇跡的に牢獄から脱出させて下さったのを見たのに、パウロは再び牢に入れられて、今回は、神は助けて下さらないから。

ざっくばらんに言うなら、ピリピの人たちは少し混乱していました。

「ワケが分からない。パウロ、なぜ神は再び解放して下さらないのですか。」

だからこそ、パウロは彼らに手紙を書いて説明しました。

“私が鎖につながれたままなのは、それが神の方法であり御心なんだ”と。

ローマの番兵たちはむしろ、パウロに鎖でつながれているのです。想像できますか。

パウロは番兵たちという聴衆を確かに得たのです。

このために、神は彼をこれほどの困難の中に置かれたのだと言えるでしょう。

状況は納得できるものではありませんでしたが、パウロが牢にいたのには目的と理由がありました。

しかし、悪い状況はこれだけではありません。

パウロはピリピ人から質問され、それに答えているようなのですが、どうやら、彼が再び投獄されていることを利用している者たちがいたようです。

それだけでなく、彼らはパウロに対抗して、意図的に敵対心を煽っていたのが分かります。

私が“対抗”と言ったのは、パウロが「彼らがしていることは野心、妬み、ライバル心から出たものだ」と説明しているからです。

私はそれに、自己アピールも付け加えておきます。

「パウロは牢の中だ。よし、これは利用できるぞ。彼は何もすることができないし。」

これが今日のキリスト教会の典型です。

悲しいですね。私は本土で最初の教会を牧会していた時に、これを目にしてきました。

自分の評判を良くし、教会員を増やすために、牧師が他の牧師を中傷する。これが蔓延していました。

これが、彼らがパウロにしていたことです。

パウロは自分に起こった全てのことにひどく落胆し、失望に溺れてしまったと思う人もいるかもしれません。

でも、パウロはそういう人ではない。逆でした。

私はここが大好きなんですが、パウロは 18 節で言っています。

18 しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。

「喜び続ける」と繰り返し言っているのです。

それほどの喜びを、どうやって持つことができたのでしょうか。

どうしたらそんなことができるのか。

もっと重要な質問は「これは、私個人にも可能なのか」という事かもしれませんね。

私も、パウロが置かれていた状況に匹敵するような問題に直面する可能性があるのは間違いありません。

しかし彼には喜びがあり、そのような状況に拘わらず喜んでいました。

私はそれが欲しい。あなたはどうですか。あなたもそうだと信じますよ。

どうすれば、これが可能なのでしょうか。

ヤコブが書いたことを思い出します。

私の兄弟たち、様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。(ヤコブ 1:2)

正直言うと、私はヤコブが書いていることが嫌いです。

牧師がそんなこと言っちゃダメですか。

聖い言い方で言うなら、私はずっとこの概念に葛藤していたんです。

私の経験はそのようではなく、私はそのようには応答していなかったから。

遠慮なく言わせてもらおうと、私は様々な試練に遭う時、「この上もない喜び」ではなく「正真正銘の地獄」だと思っていました。

こんな事を言って、皆さんが混乱しないことを願いますが。

でも、ヤコブだけではなく、ここでパウロも同じことを言っていると気がついた時に、「これは事実だ」と思ったんです。これは事実なんですよ。

でもどうやって？

ここで“知る”(Know)という言葉が出て来るんです。

ヤコブは言いました。「**この上もない喜びと思いなさい。**」

パウロは言っています。「この試練、首をかしげるような、理解できない難しい状況の中で、**私はそのことを喜んで**います。そうです。喜び続けます！」

「私がこの上もない喜びだと思えるのは、喜ぶことができるのは、その中で神がなさっていることを知っているからだ。」「私は、神がこの状況を用いて何をされるかを知っている。」「神は、この状況に目的を持っておられる。」状況に関わらず、試練の真ただ中で喜びを持つこと、喜ぶことは本当に可能なんです。

聖書に、ピリピ人への手紙が含まれている主な理由はこれではないでしょうか。

ピリピ書は、“獄中書簡”と呼ばれる4つの書簡の内の一つであることを知っていましたか。

この前終わったエペソ書と、今やっているピリピ書、次のコロサイ書とピレモンへの手紙。

これらは全て、パウロが獄中にいた時に書かれたものです。

なぜ、それを指摘するかというと、もしパウロが獄中にいなかったら、恐らくこれらの書簡は存在していなかったから。

これらがなかったら、励ましを受けることはありませんでした。

木曜夜に学んでいる詩篇とダビデのことを思うと、ダビデの人生に困難がなかったら、詩篇の殆どは存在していませんでした。

大袈裟に言いたくはありませんが、私は詩篇のない人生を想像することはできません。

非常な試練の中にある時、神は詩篇を用いて下さいました。

そのような中から詩篇が生まれたこと、パウロが体験したことから、これらの書簡が生まれたことを、本当に感謝しています。

私たちの人生にも困難な時がなかったら、この大いなる素晴らしいことはありませんでした。

素晴らしいことは、非常に困難な状況から生じます。

まさにこれこそがピリピの人たちに起こったことで、パウロの投獄のゆえに、彼らへの励ましが生じたのです。

それどころか、彼らは、以前は福音を伝える事を恥ずかしく思っていたのですが、今はパウロが牢獄にいることによって大胆になり、更に励まされました。

神がもたらされる試練や混乱の目的とその成果は、ほんの始まりにすぎません。

今朝いつもの日曜日のように早起きして、ちょっと時間をかけてこのことを深く考えていました。

その時、最初にこのメッセージを準備していた時には目につかず、リストに加えることをしなかったいくつかのことに気がつきました。

パウロは12節で「**私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立った**」と語り、13節で「**私がキリストのゆえに投獄されていることが、親衛隊の全員と、ほかのすべての人たちに明らかになり**」と言っています。

ところで、使徒の働きには、このことのゆえに彼らがどのように救われたかが書かれています。

14節「**兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことで、主にあって確信を与えられ**

もっと良くなっていきます。

15-18節で「**見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んで**います。そうです。これからも喜ぶでしょう。」

そして19節で非常に興味深いことを言いました。ここでまた“知る”(Know)が出てきますが、

「あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の支えによって、私が切に期待し望んでいるとおりに、このことが結局は私の救いになることを知っているからです。」

私はパウロに起こった全てのことをリストにしました。

7つ挙げたのですが、もっとあるかもしれません。ざっと挙げますね。

これは全部、パウロが牢獄でつながれていた時に、ピリピ教会とローマの看守に起こったことですよ。

①福音の前進

②看守の救い

③クリスチャンたちが励まされ、確信を与えられ、恐れずに福音を伝えるようになった。

注意して下さい。パウロは「彼らは恐れずに、大胆に福音を伝えるようになった」と言っています。

つまり、それ以前は、恐れて福音を伝えていなかったのだと私は解釈しています。

④パウロに対抗していた人たちは、実際にはキリストを宣べ伝えていた。

人々は依然救われていました。

⑤パウロの喜びは伝染するものだった。

喜びって、伝染していくものでしょう。

因みに、残念ながら伝染にはどちらの意味もありますが、本当に喜びで満たされたクリスチャンのそばにいたいですよ。こちらまで嬉しくなって、心が祝福されます。喜びは本当に伝染していきますから。

⑥教会がもっと祈るようになった。とりわけ、聖霊に関して。

⑦パウロは最終的には解放され、神の御国が前進していくことを知っていた。

これらは全部、パウロの投獄の結果起こったことです。

これは確かに神の目的であったと結論付けて間違いのないと思います。同意されるでしょうか。

神には目的があったので、パウロの投獄が続くことを許されたのです。

だからこそ、前回のように解放しなかった。神の目的、計画。

「そうですけど、でも先生、状況は本当に大変なんです。」そうですね。

次の事を知っていると、理解するのに役立つかもしれません。

神様が困難を許可される理由は、神があなたを通して益となることを行うためかもしれないのです。

状況は厳しいかもしれませんが、ある人が適切に表現しているように、「神はあなたの状況以上に、あなたに与えているご自分の召しに関心を持っている。」のです。

と言っても、神があなたの大変な状況に気を留めておられないという意味では絶対にありません。

そうではなく、その大変な状況を働かせて生み出すものに、より関心を持っているということです。

これは私たちが大好きだけど、最初の部分は引用しない、有名な御言葉ではありませんか。

ローマ書 8:28

私たちは知っています。NOではなく Know。

神を愛する人たち、すなわち・・・すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

でもこの部分はさっと読んでしまう。

神のご計画にしたがって召された人たちのためには

この部分は読もうとはしないのですよ。

正直になりましょう。教会にいるのですから。

ここだけを引用したいんです。

神を愛する人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

そして、「神様は全てを益として下さるんだよ。」と言って、他の人を励ましている。

時として、これは自分に言っているのですが、激しい試練の真ただ中っていると、ただ虚しく響くだけ。

「その御言葉は知っている。分かっているよ！」

この資格条件と言ってもいいでしょうか、それには前提条件が2つあるのです。

①主を愛する者たち

②全てが益となることを知っている、神のご計画に従って召された者たち

これがもっと重要だと思いますが。

それなら、神の目的が何であるかを知るべきではありませんか。これが前提条件なんですから。

それが29節です。

神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。(ローマ 8:29)

これが目的です。

「先生、何が目的なんですか。今朝はコーヒーをあまり飲んでこなかったもので、よく理解できないんですが。」

目的は、私たちをもっとイエスに似た者とする事。これが神の目的。

人生の全く理解できない試練、困難な状況の目的は、あなたをイエス・キリストと同じ姿にすることです。

それは、兄弟姉妹たちの中で、あなたや私が長子となるためなのです。

締めくくりに、質問を2つしたいと思います。

と言っても、1つ目の締めくくりですからあまり喜ばないで下さいね。聖霊に導かれるままに。

私たち全員がこれを覚えておくなら、しっかり頑張れると思います。大変な試練を通っている方は特に。

最初の質問。

あなたが通っている試練の中で、またその試練を通して、神様が行おうとしている偉大で素晴らしい計画とは何だろうか。

2番目。

あなたの人生で、また人生を通して、更に困難な状況の中で、神様が触れたいと思っている人がいるのだろうか。

「この試練は私の益というより、誰か他の人の益になるためかもしれない」と思ったことはありませんか？

難しいですよ。特に試練の中にいる時には。

「私が今苦しんで、厳しい状況にいるのは誰かのためだって!？」

いや、あなたのためでもあるのです、人々はあなたを見ていますから。

シェアしたいことは、というよりも、主がこの礼拝で私が語ることを願っているのだと思うのですが。

私と妻がここに来たのは2003年12月で、2004年、金曜夜のバイブルスタディーという形で正式に教会を始めました。

私は教会を始める時期というか、始めるべきなのかを本当に祈っていて、ものすごく正直に言うと、別の教会を始めようとしていたのです。1年半くらい、主の導きを求め、待っていました。

遂に主は明確に語って下さり、2005年2月にカルバリーチャペルカネオへの日曜礼拝が正式に始まりました。

最初の日曜礼拝が、なんとスーパーボウルサンデーだったので絶対に忘れることはありません。

“やっちはいけない教会の始め方”というタイトルで本を書こうかと思えますよ。

100個くらいあると思いますが、ともかくスーパーボウルサンデーの日に教会を始めるべきではありません。

2005年2月、すぐにAloha Pregnancy Care and Counseling Centerを出て、Kaneohe SDA Churchを借りて日曜礼拝を持つようになりました。

神様が奇跡的にこの美しい教会を与えて下さるまで、12年間そこにいました。

ほどなくして妻が妊娠し、既に男の子が2人いたので、女の子が与えられるようにと祈っていました。

男の子は2人で十分だったので、女の子が欲しかったのです。

そして女の子。しかし、妊娠8か月目に娘ノエルはエドワーズ症候群と診断されました。

これは18トリソミー、18番染色体が3本一組となってしまう、赤ちゃんは助かりません。

医師たちからは出産に至る生存率は50%、1歳の誕生日を迎える可能性はわずか10%と言われました。

要するに、死ぬために家に連れて帰るということです。

「もしかしたら」ではなく「いつ起きるか」でした。

私は教会を始めたばかりで、まだフルタイムで仕事をしている時に、突如としてこれが起こったのです。

本当に打ちのめされた。

敵はそこにいて、「おまえは御心から外れている。この教会を始めるべきじゃなかったね。人生最大の失敗をしでかした。」と言ってきました。

皆さんも色々な方法で、「神様はこれが起こる事を許して、おまえを罰してるんだよ。」と言われたことがあるはずです。

本当に、今日に至るまで、生涯で最も暗い時でした。

面白かったのは、当時の教会は、私がメッセージするところだますんです。

覚えている人もいると思いますが、それは音響効果ではなくて木の座席が原因でした。

座っていたのは 25 人くらいだったので、空いている席から音が跳ね返ってくるのです。

ものすごく小さな教会。

そして信徒たちは、「これは全ての親にとって悪夢じゃないか。先生はどうするんだろう。」と見ていました。

子供の死。想像を絶すること。

ノエルは 12 月 28 日に生まれ、蘇生処置をして家に連れて帰りましたが、24 時間看護が必要な状態。

私は牧会を続けていました。

ノエルは 4 か月と 6 日生き、2006 年 5 月 6 日、Kapiolani 病院で、私たちの腕の中で亡くなりました。

その間、主は確かに深く働いていて下さったのですが、同時にこのことを通して、他の人たちにも働いて下さったのです。

多くの牧師がハワイにやって来ますね。

「主よ、ここに私がおります。遣わして下さい。ジンバブエではなくハワイに。」

本当の話ですが、本土での役員会で、「主は私にオアフへの召しを与えておられます。」と告げた時、1 人の長老が「主の御声を聞き間違えたのだと思いますよ。オアフではなくオハイオと言われたのですよ。」

私は「サタンよ。引き下がれ。」と答えましたが。

私は知らなかったのですが、子供の死というとてもない試練を体験している私と妻を見守っていたこの尊い小さな教会の人たちは、私も他の牧師たちと同じように諦めて本土に戻って行くだろう、それによって、以前の牧師たちのように悪い印象を残していくだろうと予想していました。

しかし私たちは留まり、牧会を続けた。

ある日曜日のことを覚えています。ひどい日でした。信徒の皆さんに悪かったと思います。

メッセージはしていたけれど、心は死にかかっていたから。ぼろぼろでした。

でも 45 日後、今日のトピックではありませんが、妻が「ノエルの代わりではなく、ノエルのことで傷ついた心を癒すために女の子が欲しい。」と。

私たちは結婚して 10 年間は子供ができなかったのですが、簡単なことではないと分かっていたのですが、45 日後、今 11 歳の娘サビアを授かったのです。

教会の人たちはこれを見ていました。

そして、私たちが試練を通り、神様が乗り越えさせるのを見た時に、この牧師はどこにも行かないと分かったのです。

「それなら、私たちも留まり続けようじゃないか。娘の死後も、この教会にこんなに専心しているなら本物だ。」と言って、彼らも献身しました。

それまでは、「もう少し見てください。結論を出すのはまだ早い。」という感じでしたから。

当時、私が知ることができなかったこと、もしかしたら、知っているべきだったことは、あの出来事は、この教会に対する神の目的だったんだということです。

私は今日、皆さんの前に立って言います。以前にも言ったことがあります、これを言って終わりにします。

私には、教会である皆さんのいない人生は想像することすらできません。

痛ましい出来事でしたが、あの全ての体験を、皆さん無しで乗り越えるなどとは思ってもできない。

この教会の、皆さんの前に毎週立たせて頂く度に、どんなことがあろうともどれだけ辛くとも、神は良いお方であると思ひ起こすのです。

あなたが今日、困難の中にあるなら励ましたいと思います。

「あなたが通っている試練の中で、またそれを通して神様が何をなされるのかは、時が来れば分かります。」

祈りましょう。

天のお父様、感謝します。困難という友を、試練のしもべを感謝します。

主よ、試練の中から、いつもあなただけにしかできないものを生み出して下さることを感謝します。

主よ、感謝します。

イエスの御名によって。アーメン。

~~~~~  
「きょう、もし御声を聞かならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi